

vol.8 棋友会から

小池芳弘二段・小池邦吉弁護士に聞く
～息子はプロ棋士！

棋友会会員の小池邦吉弁護士（48期）のご長男小池芳弘二段が、（碁打ち憧れの！）プロ棋士になられたので、お話を伺いました。

棋友会 鈴木かおり（63期）
舟橋 史恵（63期）



父子対局の様子

●小池二段のご紹介○

小池二段は平成10年生まれ、平成27年夏季にプロ試験に合格されました。合格後すぐに、棋聖戦というタイトル戦で予選トーナメントを勝ち抜いてCリーグ入りを果たし、今年も残留を果たすなど、今後の活躍が大変期待される若手棋士です。

●囲碁を始めたきっかけ○

小池二段は、小学校に入学する直前に囲碁を始めます。きっかけは、お父様が対局するのを見ていた小池二段が、囲碁が将棋を教えてほしいとねだったこと。お父様は、囲碁の方が始めやすいだろうと考え、囲碁を教えることにしました。お父様は、当時、アマ初段～二段くらいの棋力でしたが、小池二段は小学3年生ころには同じくらいの棋力まで成長したそうです。

●プロになるまで○

その後、小池二段は、お父様の知人の紹介で、小学3年生の時に、師匠である高林拓二六段のもとで内弟子生活を始めます。小学校から帰っては師匠や既にプロ入りを果たしていた兄弟子らと対局する中、棋力は飛躍的に向上し、わずか半年後にはアマ5段以上の棋力となり、院生（プロ棋士を目指して日本棋院で学ぶ生徒のこと）となります。

内弟子に入るために転校して、親元を離れて師匠と兄弟子たちと寝食を共にし、テレビなし（見るとしても囲碁）、ゲームもなし、自宅に帰ることができるのは

お盆と正月の年に数日程度、という生活の中、不安がなかったか小池二段にお伺いしましたが、「好きな囲碁がずっとできるならいいかな」と思っていて、家に電話することもほとんどなかったそうです。お父様も、「好きなことをやればいい」という教育方針のもと、師匠を全面的に信頼して預けていたとのことで、家族の強い絆を感じました。

●プロ棋士として○

プロ試験に合格された後は、ご自宅に戻られ家族と一緒に生活しているそうです。プロとしては、週に1回程度の手合い（対局）のほか、熱心に棋士同士の研究会に通われ、海外（中国、韓国）遠征などにも参加されています。

これまでに一番悔しかった対局は、棋聖戦Bリーグ入りをかけた林漢傑七段戦、公式戦で対戦してみたい棋士は、現在七冠保有中の井山裕太棋聖で、中国や韓国の棋士とももっと対戦してみたいそうです。

お父様は、小池二段にタイトル戦で活躍してもらって、いつかタイトルを取ってほしいと期待されていました。

私たちが今後の益々のご活躍を期待しています！